

2021年1月13日

ノンファーム型接続の全国展開を踏まえた対応について
～ノンファーム型接続の適用を開始～

当社は、再生可能エネルギーの一層の導入拡大を図る観点から、本日（1月13日）より、空き容量のない基幹系統（当社では50万V、27万V）を対象に、送変電設備の空いている時間帯の容量を活用し、発電出力を制御することで、増強工事を行わなくても接続を可能とする「ノンファーム型接続」の適用を開始することといたしました。

ノンファーム型接続については、国および電力広域的運営推進機関の委員会^{※1}において検討等が進められてきました。本日より、全国の空き容量のない基幹系統を対象にノンファーム型接続が適用されることから、当社においても開始するものです。

今後、基幹系統に空き容量がなくなることが見込まれた場合は、接続検討回答に、原則ノンファーム型接続となることを明記します。^{※2}

なお、今後、ノンファーム型接続を適用した場合には、当社ホームページにて情報を公表いたします。

当社は、引き続き、再生可能エネルギーの導入拡大に適切に取り組んでまいります。

以上

※1）経済産業省 資源エネルギー庁の再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会、電力広域的運営推進機関の広域系統整備委員会

※2）基幹系統以外の送変電等設備については、送電可能量を超過する場合は、基本的に増強工事が必要となります

（別紙）「ノンファーム型接続」について